

カンパラ通信～ナカセロの丘から

第6回 天皇誕生日祝賀レセプション

間もなく新年を迎える時期となりました。皆様も何かと慌ただしい日々をお過ごしではないでしょうか。そしてカンパラ通信も今年最終回を迎えました。と申しましても、来年も続けるつもりですので、引き続きご覧いただければ幸いです。

さて、在外公館（世界中の各国の大使館や総領事館）では、その国の誕生日ともいべき国祭日（ナショナル・デー）があり、1年に一度お祝いを致します。ご招待するお客様は、その地の政界や経済界の重鎮、政府関係者、二国間の関係発展に協力している方々、その地に駐在している外交団、そして在留邦人の方々を招待してレセプションを催すのが通例です。レセプションというのは、平たくいうと祝賀会という名のパーティです。例えば、米国ならば7月4日の独立記念日が国祭日ということになっており、独立記念日前後に各国駐在の米国大使館がレセプションを開いております。英国の場合は、エリザベス女王陛下の誕生日を祝すレセプションは例年6月の第2土曜日前後に催されていますが、女王陛下の実際の誕生日が4月21日なので不思議です。

我が国の場合は、天皇陛下の誕生日を祝ってレセプションを開くことになっております。実際の天皇陛下の誕生日は12月23日ですが、クリスマスや年末年始の休暇等に重ならない配慮から、各国の事情に応じて、それ以前の12月のいずれかの日や場合によっては11月にレセプションを開催することが各在外公館に許されております。



（挨拶する筆者）



（スピーチを聞く聴衆）

この国祭日レセプションというのは、どの大使館にとってもメイン・イベントの行事となっており、その開催にあたって各大使館がそれぞれ工夫を凝らして

います。ここウガンダの最近の流行は、国際日を祝う国の国旗とウガンダの国旗をあしらった大きなバースディ・ケーキに駐在大使とウガンダ政府を代表する主賓の二人で入刀するパフォーマンスです。トルコの国祭日レセプションのように、自国からジャズ・グループを招いての演奏や、やはり自国から料理人に来てもらってオリジナルなトルコ料理を振る舞うという大使館もありました。そのため、相当早い時期から国祭日レセプションのための準備に余念はありません。その準備の中でも結構大変なのが招待者リストの作成です。ウガンダの各界の代表的な人や日本と縁のある人を漏らさないようにリストを作るのは意外と難しいものです。過去から続けてリストには載っている人物がいったい何者なのか大使館の館員の誰も知らないという場合が少なくありません。

そのような前置きを述べさせていただき、続いて本年12月8日の夕刻に開催しました在ウガンダ日本大使館の天皇誕生日レセプションについてご紹介します。

私には、このレセプションの開催日はだいたい12月の中旬のどこかと考える習慣がついています。その理由は、12月25日のクリスマスを祝う準備で忙しいところが多いこと、キリスト教国でなくともそこに駐在する外交団が年末年始休暇で赴任地を離れてしまうので12月下旬以降は人が集まりにくいということがわかっているからです。天皇誕生日のレセプションを12月8日（木曜日）に決定したのは、週末を挟まず週後半の平日の方が準備の最後の追込みを行いやすく、更に、雨天に備えて開催会場であるナカセロの丘に位置する大使公邸の庭に大きなテントを張ることと撤収を考えてのことです。このように決めたのが9月の前半のことです。同時にこの時期から招待者リストの作成準備を始めました。招待状の発注も日付が決まり次第始めました。当日の各担当を決めたり（因みに現地職員を含めた全館員が何らかの役割を担うこととなります。）、警備の計画を立て、当地の治安当局との接触も始めます。また、どのような食事をどのくらいの量を用意するかも考えていきます。



（主賓と乾杯する筆者）



（国歌を斉唱する「あしながウガンダ」キッズ）

一般的にウガンダでの各国の国祭日レセプションでは、一定程度招待客がいらっしやったところで主催国の大使が挨拶し、ウガンダ大統領と国民の健康と福祉を願い乾杯します。続いてウガンダの国歌の演奏、その後にウガンダ側主賓のスピーチと続き再び乾杯し、主催国の国歌を演奏するという式次第を行います。そして本格的に食事をお出し歓談するという具合に進んでいきます。今年の日本の天皇誕生日のレセプションもこの例に倣っての式次第としましたが、私自身が工夫したのは自らの挨拶と国歌演奏をどのようにするか二点でした。

今回は私が主催する初めての天皇誕生日祝賀レセプションということで特に力を入れて挨拶を考えておりました。文章にまとめたのは11月末ですが、相当以前から内容は頭の中で練っておりました。レセプション当日の挨拶では、私がウガンダの地を訪れたのは今回初めてではなく2度目であることに触れ、日本とウガンダの更なる友好関係の促進のために旧友とそして今回知り合うことができた新しい友人の力を借りて精一杯努力したいとのメッセージを発しました。2番目が本年8月下旬ケニアの首都ナイロビで開催された第6回T I C A D首脳会議への言及で、T I C A D首脳会議が今年の日本・ウガンダ関係、日本・アフリカ関係の最大のイベントであったと紹介しました。その関係で安倍総理大臣とムセベニ大統領の間で首脳会談が開かれたこと、このT I C A D首脳会議のフォローアップとして来年1月初めに日本・ウガンダ官民インフラ会議の開催が予定されており、日本からは国土交通省の副大臣が訪れることを披露しました。そして、カンパラ通信第3回でも取り上げた「あしながウガンダ」の孤児たちが安倍総理主催のT I C A D首脳会議参加賓客のためのレセプションで素敵な民族舞踊を披露したことを伝えながら、あしなが育英会のアフリカにおける活動を紹介しました。最後に本日のレセプションでふるまわれる巻き寿司と日本酒になぞらえて、お米の話をし、前回のカンパラ通信で取り上げたネリカ米の話に絡めて日本のウガンダにおける米振興プロジェクトを紹介しました。中でも、ネリカ米を使った寿司を振る舞いたく試みたがネリカ米ではネバリ気が足りなく寿司作りに失敗した話が聴衆の笑いを誘いました。勿論私の挨拶の後の乾杯が日本酒であったのは申し上げるまでもありません。

国歌演奏は、「あしながウガンダ」の孤児たち10数人に両国国歌を斉唱してもらいました。このアイデアは、ケニアでのT I C A D首脳会議の際に「あしながウガンダ」の子供たちが踊りを披露するということがわかってから温めていました。よく見かけるCDによる演奏だと在り来たりと想っていたことです。9月に「あしながウガンダ」代表の山田優花さんに、国歌斉唱でウガンダ国歌と「君が代」を日本語で斉唱してもらうことをお願いしましたら、山田代表が快

諾してくれて大変うれしかったです。先の挨拶の中で招待客にレセプションのハイライトである「あしながウガンダ」の孤児たちによる両国国歌斉唱に拍手してくれるようお願いしましたが、歌声は拍手をお願いするまでもない素晴らしい出来映えでした。

さて、今回のウガンダ側の主賓は、フィルモン・マテケ地域問題担当国務大臣（アフリカや中東問題を担当する副外務大臣といったところですが。）でした。主賓はウガンダ外務省が中心となって選んでくれるので私どもでは希望くらいは出せても、最終的にはウガンダ政府部内の決定となりますので、待ちの姿勢で臨みます。本来でしたら主賓はクテサ外務大臣又は日本もカバーする国際問題担当のオケロ・オリエム国務大臣なのですが、お二人ともレセプション当日の都合がつかずマテケ国務大臣になった旨ウガンダ外務省から連絡がありました。この決定がレセプション開催日の2日前の12月6日で、しかも私はそれまでマテケ国務大臣に挨拶に行く機会がありませんでした。大臣への初めてのご挨拶がレセプション当日ではあまりに失礼かと思い、急いで6日午前にも面談を申し入れ、その日の午後に挨拶に行くことができたというドタバタもございました。



（歓談風景）



（終了後の全館員集合写真）

レセプションでどのような食事をお出しするかについては、今田公邸料理人と相談しました。まずは、料理はウェイター・ウェイトレスがトレイでお客様のところまで持って行きつまんでもらう形にしました。ブッフェ形式よりこの方が招待客が歓談を続けやすいと思ったからです。この原則に従って、外注のカナッペ類の他は、日本らしく海老の天麩羅、海苔巻き、焼き鳥をと今田さんと話し合いました。レセプション当日の海老天の売れは良く、また、意外なことに海苔巻きが美味しかったという人が多かったです。

今年の天皇誕生日祝賀レセプションには250名近くの方々に出席していただき、それほど狭くはない公邸の中庭がいっぱいの人で埋まり、大変安堵いたし

ました。どんなに万全の準備をしても会場がすかすかのレセプションほど寂しいものはないからです。しかも、主賓のマテケ国務大臣に加えて、もっとも仲の良い閣僚の一人であるカムントウ観光大臣、各種インフラ案件で接触が深いンテゲ公共事業大臣がお出かけ下さいました。当館に関係する職員に近い公共サービス大臣、それとどういう経緯でいらしてくれたのかわからない司法大臣、更には農林畜産省の国務大臣と多くの政府高官がいらしてくれたことは予想外のことだっただけに望外の喜びでした。親しい同僚の各国の大使の皆さんも日本のレセプションを喜んでくれたようでした。

ウガンダに赴任して早半年、こうして天皇誕生日祝賀レセプションという年末最大の行事が無事に終わり、私もほっといたしました。大使館にとっては、年末年始ムードに入って来たという実感がわいてきます。皆様にはどのような一年でしたでしょうか。どうぞ、皆様方も健やかに良いお年をお迎えくださることを心からお祈りしております。

(以上)